

聖書日課 『からし種』 2023.2.12-2.19

<p>2月12日 (日) ヨシュア 16章</p>	<p>「ヨセフの子ら、マナセとエフライムは嗣業の土地を受け継いだ」(4節)。ヨセフが兄弟たちの恨みを買ってエジプトに奴隷として売られて約四百年。ヨセフの危機と苦難の中に働かれた主が、その子孫たちの生涯にも寄り添い、「約束の地」に導き入れてくださった。主イエスの「神の国」に向かう旅に招かれている私たちも、主の伴いの約束を握りしめ歩んでいきたい。</p>
<p>13日 (月) ヨシュア 17章</p>	<p>「彼(ツェロフハド)には息子がなく、娘だけであった。娘たちの名は、マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァといった」(3節)。ツェロフハドの娘たちの土地相続の訴えは、民数記と併せて三回も記されている。通常、家系図には男性の名しか刻まれない「旧約」において、五人の娘たちの勇気ある訴えは、他の女性たちの権利と暮らしを守ることになったのである。</p>
<p>14日 (火) ヨシュア 18章</p>	<p>「イスラエルの人々の共同体全体はシロに集まり、臨在の幕屋を建てた」(1節)。シロは、エルサレムがユダ王国の都となるまで、主の礼拝がささげられた場所である。人々は約束の地を各部族に割り当てる前に、まず主の御旨に聴き、礼拝をささげる場所を定めた。私たちは自分の暮らしの中に主のための礼拝の場所を定めることを大切にできているだろうか。</p>
<p>15日 (水) ヨシュア 19章</p>	<p>「以上は…諸部族の家長たちが、シロの臨在の幕屋の入り口で、主の前においてくじを引き、受け継いだ嗣業の土地である」(51節)。「土地の嗣業の割り当て」は各部族の将来を決める一大事であり、「くじ引き」の背後では歓声と嘆息が入り混じって聞こえたことだろう。「あなたの定めはわたしの嗣業です」(詩編119:111)と告白する信仰をいただけるように。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.2.12-2.19

<p>16日 (木)</p> <p>ヨシュア 20章</p>	<p>「以上は…過って人を殺した者がだれでも逃げ込み、共同体の前に立つ前に血の復讐をする者の手にかかって死ぬことがないようにしたのである」(9節)。愛する者の命を奪われた悲しみと憤りは、たとえ「過失」であっても簡単に癒えるものではない。主の深い慈しみの取り扱いを必要とする。わたしと誰かの「間」には常に主の執り成しを必要とすることを覚えたい。</p>
<p>17日 (金)</p> <p>ヨシュア 21章</p>	<p>「主はまた、先祖に誓われたとおりに、彼らの周囲を安らかに住めるようにされたので、彼らに立ちはだかる敵は一人もなくなった」(44節)。たった一人でも「敵」がいると、私たちの夜は眠れぬ夜となり、朝は心かき乱された苛立ちの朝となる。「敵」とは何者か。私たちが「敵」と思う、その人を愛する故に十字架に歩まれた主の深い祈りを覚える信仰を祈り求めて。</p>
<p>18日 (土)</p> <p>ヨシュア 22章</p>	<p>「ルベンとガドの人々はこの祭壇を、『わたしたちの間では主が神であることの証人』と名付けた」(34節)。ヨルダン川の東岸と西岸に住む人々の間に行き来していた微妙な感情の対立が垣間見えるエピソード。ヨルダンの「こちら」も「あちら」も、いずれも主なる神が祝福を注いでくださる場所。「証人」として、私たちの間に立ってくださる方を「共に」見上げて。</p>
<p>19日 (日)</p> <p>ヨシュア 23章</p>	<p>「あなたたちは心を尽くし、魂を尽くしてわきまえ知らねばならない。あなたたちの神、主があなたたちに約束されたすべての良いことは、何一つたがうことはなかった」(14節)。主のなさる「良いこと」は、今や目先のことだけからはわからないのだろう。「なぜこんなことが？」と思うことの多い今、心を尽くし魂を尽くして、主のみこころをわきまえ知りたいたい。</p>